

令和6年度「全国学力・学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立岡本小学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や児童の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって児童を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、令和6年度「全国学力・学習状況調査」における本校児童の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

【調査の概要】

1 目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況等の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 調査期日

令和6年4月18日(木)

3 調査対象

小学校 第6学年(国語, 算数, 児童質問紙)

中学校 第3学年(国語, 数学, 生徒質問紙)

4 本校の参加状況

① 国語 49人

② 算数 49人

5 留意事項

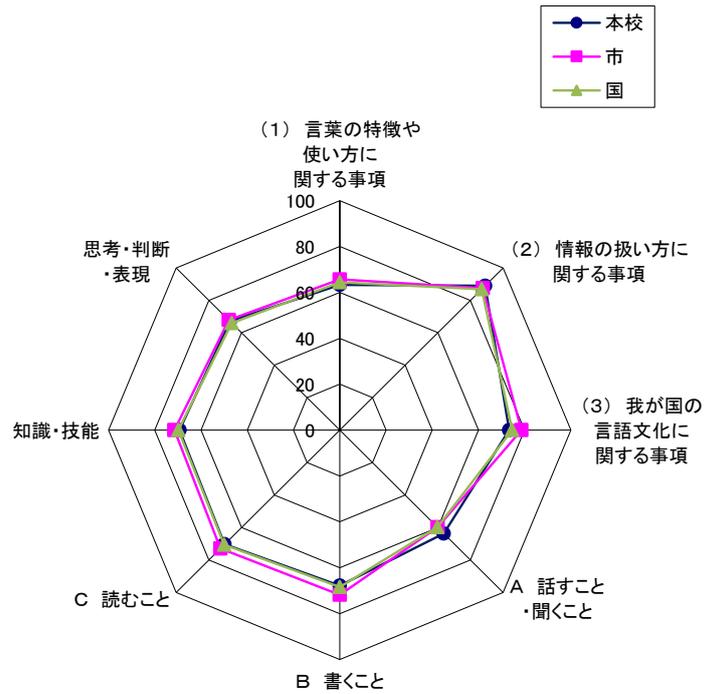
- (1) 本調査は、対象となる学年が限られており、実施教科が国語、算数の2教科のみであることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、児童が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。
- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立岡本小学校第6学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

【国語】

| 分類 | 区分 | 本年度 | | |
|-----|---------------------|------|------|------|
| | | 本校 | 市 | 国 |
| 領域等 | (1) 言葉の特徴や使い方に関する事項 | 63.3 | 65.7 | 64.4 |
| | (2) 情報の扱い方に関する事項 | 88.9 | 87.6 | 86.9 |
| | (3) 我が国の言語文化に関する事項 | 73.3 | 78.6 | 74.6 |
| | A 話すこと・聞くこと | 63.7 | 59.9 | 59.8 |
| | B 書くこと | 67.8 | 71.8 | 68.4 |
| | C 読むこと | 70.4 | 72.9 | 70.7 |
| 観点 | 知識・技能 | 69.3 | 71.5 | 69.8 |
| | 思考・判断・表現 | 67.2 | 67.8 | 66.0 |
| | 主体的に学習に取り組む態度 | | | |



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

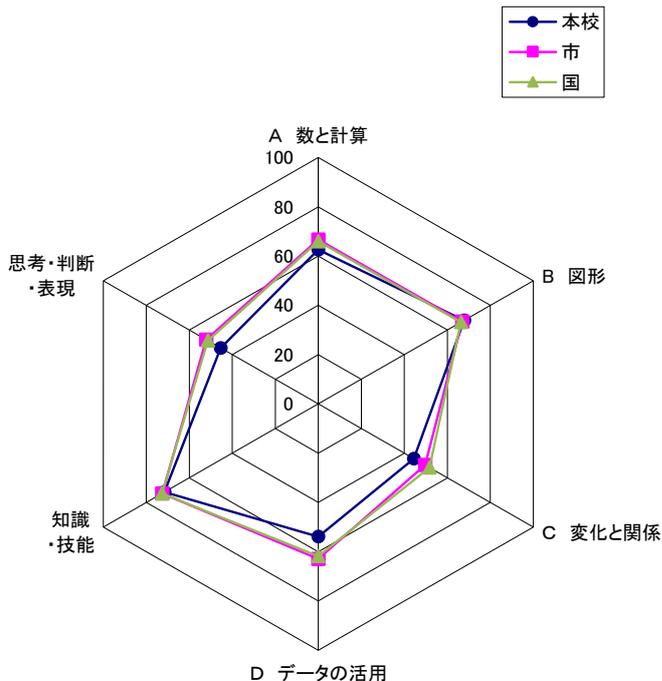
| 分類・区分 | 本年度の状況 | 今後の指導の重点 |
|---------------------|---|--|
| (1) 言葉の特徴や使い方に関する事項 | 平均正答率は、全国平均よりも1.1ポイント低い。 ○正しい送り仮名を選択する問題では、無解答がない上、86.7%の児童が正答している。また、話し言葉と書き言葉との違いに気付くことができるかどうかをみる問題では、82.2%の児童が正答している。 | ・漢字を読んだり、書いたりする際には、身近に漢字辞書を置いて調べたり、1人1台端末を活用したりして進めていく。新出漢字をノートに練習するだけでなく、文の中で正しく使うことができているか、送り仮名は間違っていないかにも気を付けながら、漢字や言葉の使い方を身に付けられるようにしていく。 |
| (2) 情報の扱い方に関する事項 | 平均正答率は、全国平均より2ポイント高い。 ○情報と情報との関係付けの仕方、図などによる語句と語句の関係の表し方を理解し使うことができるかをみる問題では、88.9%の児童が正答するなど、情報と情報との関係について意識して情報を集めたり、まとめたりすることができている児童が多い。 | ・1人1台端末をさらに活用して、様々な文章の集め方・まとめ方で考える機会を取り入れ、情報と情報との関係付けや語句と語句との関係の表し方に意識を向けていくことができるようにする。 |
| (3) 我が国の言語文化に関する事項 | 平均正答率は、全国平均より1.3ポイント低い。 ●日常的に読書に親しみ、読書が、自分の考えを広げることに関与することに気付くことができるかをみる問題では、正答率が73.3%で、8.9%の児童が無解答であった。 | ・学級単位で図書室を利用したり、読書の時間を多く取り入れたりするなど、日常的に読書に親しむ機会を増やしていく。 |
| A 話すこと・聞くこと | 平均正答率は、全国平均より3.9ポイント高い。 ○目的や意図に応じて、日常生活の中から話題を決め、伝え合う内容を検討することができるかどうかをみる問題では、68.9%の児童が複数の条件をもらさず確認しながら解答することができている。 | ・全体指導のみではなく、ペア活動やグループ活動を多く取り入れ、相手の話を聞く際は、相手の話の目的や意図を捉えながら内容を注意深く聞き取ることができるようにしていく。 |
| B 書くこと | 平均正答率は、全国平均よりも0.6ポイント低い。 ●複数の条件を取り入れたたり、文章全体の構成や書き表し方に着目したりして書くことの大切さを理解し、考えたり表現したりしていることは伺えるが、無回答の児童も多かった。 | ・意図的に条件を付けて書く機会を増やし、その目的や意図に応じて、自分の考えの理由を明確にし、まとめて書くことを継続して行っていく。 ・様々な観点で互いの書いた文章を読み合い、感想や意見を伝え合うことにより、自分や友達の文章の良いところを見付けるようにする。 ・引き続き、国語だけでなく学校行事後や他教科の学習においても書く活動を取り入れ、書くことに対する抵抗感を無くしていく。 |
| C 読むこと | 平均正答率は、全国平均よりも0.3ポイント低い。 ○登場人物の相互関係や心情などについて、描写を基に捉えることができるかどうかをみる問題では、正答率が全国平均より6.4ポイント高く、人物像や物語の全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりすることができるかをみる問題でも、正答率は5.2ポイント高くなっている。 ●無解答率が17.8%と高く、時間が無く問題が終わらない児童が多いことが分かる。 | ・本文や問題文で大事な内容を押さえ、本文の中から問われている事柄を見つけ出して整理していくことができるよう、大切な言葉に印をつけるなどの指導を継続して行う。 ・読み取る力の更なる向上を図るために、自分の考えをまとめる活動を多く取り入れたり、文章を引用して説明するなどの技能を養っていく。 |

宇都宮市立岡本小学校第6学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

【算数】

| 分類 | 区分 | 本年度 | | |
|----|---------------|------|------|------|
| | | 本校 | 市 | 国 |
| 領域 | A 数と計算 | 62.6 | 66.7 | 66.0 |
| | B 図形 | 67.8 | 66.9 | 66.3 |
| | C 測定 | | | |
| | C 変化と関係 | 44.4 | 49.6 | 51.7 |
| | D データの活用 | 53.9 | 62.9 | 61.8 |
| 観点 | 知識・技能 | 71.6 | 72.6 | 72.8 |
| | 思考・判断・表現 | 45.4 | 52.2 | 51.4 |
| | 主体的に学習に取り組む態度 | | | |



★指導の工夫と改善

○良質な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

| 分類・区分 | 本年度の状況 | 今後の指導の重点 |
|----------|---|---|
| A 数と計算 | <p>平均正答率は、全国平均よりも3.4ポイント低かった。</p> <p>○数量の関係を口を用いた式に表す問題の正答率は、93.3%と高い値を示した。ほとんどの児童が問題文を読み取り、数量の関係を口を用いて立式することができていた。</p> <p>●計算に関して成り立つ性質を活用して、計算の仕方を考察し、求め方と答えを式や言葉を用いて記述する問題の正答率は、全国平均よりも10.2ポイント低かった。計算の仕方の工夫を説明することができていなかった。</p> | <p>・テープ図や数直線等を活用し、数量の関係を整理するように指導したことの成果と考えられる。今後も継続して指導していきたい。</p> <p>・かけ算のきまりを活用して、問題を解くことが十分にできていなかったと考えられる。今後は乗法・除法の規則について振り返るとともに、単純に筆算をするだけでなく、規則を使って工夫して計算する機会を増やしたり、工夫の仕方を説明したりすることで、正確に簡単に答えが求められるようにしていきたい。</p> |
| B 図形 | <p>平均正答率は、全国平均よりも1.5ポイント高かった。</p> <p>○直方体の見取り図について理解し、かくことができるかどうかみる問題の正答率は、84.4%と高い値を示した。直方体の見取り図の正しいかき方について、多くの児童が理解している状況が伺える。</p> <p>●球の直径の長さや立方体の一辺の長さの関係を捉え、立方体の体積の求め方を式にする問題の正答率は、42.2%であり、50%を下回った。すなわち、児童の半数以上が、立方体の一辺が球の直径と等しい長さであることを活用して、問題解決することができていなかった状況が伺える。</p> | <p>・直方体や立方体の見取り図のかき方を指導し、十分に演習したことの成果であると考えられる。今後も見取り図や展開図について正確に早く作図できるよう練習の機会を設け、指導していきたい。</p> <p>・児童は球の直径と、立方体の一辺の長さが等しいことをとらえて問題を解くことができなかった。今後は、ボールの直径の長さを活用して箱の体積を求めるなど、学習したことを組み合わせて工夫して問題解決できるような機会を設けたい。また、求め方をグループや学級全体で話し合いながら共有し、解決の見方・考え方を広げられるように指導していきたい。</p> |
| C 変化と関係 | <p>平均正答率は、全国平均よりも7.3ポイント低かった。</p> <p>●道のりが等しい場合の速さについて、時間を基に判断し、その理由を言葉や数を用いて記述する問題の正答率は、20.0%と低い値であった。このことから、同一の道のりという条件の中で、時間を基に速さの大小を比べることができなかったと考えられる。</p> <p>●速さの意味について理解しているかどうかをみる問題の正答率は、46.7%であり、低い値であった。このことから、児童の約半数が速さの求め方を十分に理解していない状況が示唆された。</p> | <p>・道のりが等しい場合、その道のりを短い時間で通過した方が速いという、基本的な速さの比べ方を多くの児童が理解できている。しかし、そのわけを言葉や数を使って記述することができていない。今後は時間や道のりを基にして、速さの大小を比べ、説明する機会を増やしていきたい。</p> <p>・速さ(平均速度)は進んだ全体の道のりを、費やした全体の時間で除することによって求められることを改めて確認し、より多くの児童が正確に速さを求めたり、その大小を比べられるようにしていきたい。</p> |
| D データの活用 | <p>平均正答率は、全国平均よりも7.9ポイント低かった。</p> <p>●簡単な二次元の表を読み取り、必要なデータを取り出して、落ちや重なりがないように分類整理できるかどうかをみる問題の正答率は、全国平均よりも15.5ポイント低かった。このことから、二次元の表からのデータの読み取りが十分にできていないことが示唆された。</p> <p>●示された情報を基に、表から必要な数値を読み取って式に表し、基準値を超えるかどうか判断する問題の正答率は、33.3%と低い値であり、全国平均よりも16ポイント低かった。このことから、示された情報から問題解決するための式を導くことができなかったと考えられる。</p> | <p>・二次元の表から必要なデータを読み取ることができていなかった。今後は二次元の表の読み方を再度確認するとともに、練習問題を通して、データを読み取る力の習熟を図りたい。</p> <p>・本校の児童は、①問題の情報を整理して必要な式を導き出すこと、②表から必要な数値を読み取り、導き出した式に当てはめることの2点ができていなかったと考えられる。表を読み取る力に加えて、問題場面から式を導き出すことにも大きな課題がある。今後は授業の中で、問題の場面を捉え、式を導くまでの過程に重点を置き、図を活用するなど視覚的に支援をしながら、問題の意図を読み取り、立式できるようにしていきたい。</p> |

宇都宮市立岡本小学校 第6学年 児童質問紙

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○他者とのつながりに関するものとして、「先生は、あなたのおよところを認めてくれていると思いますか」に対する肯定的回答は100%で、全国平均より10ポイント高く、「困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できますか」に対する肯定的回答は81.3%で、全国平均より14.2ポイント、「自分にはよいところがあると思いますか」に対する肯定的回答は93.7%で、全国平均より9.6ポイント高い。「地域や社会をよくするために何かしてみたいと思いますか」に対する肯定的回答は93.8%で、全国平均より10.3ポイント高い。今後も学級活動や児童会活動などの特別活動を中心とした、自治的な集団活動を通して他者よりよく関われる児童の育成に努める。

○生活に関するものとして、「携帯電話・スマートフォンやコンピュータの使い方について、家の人と約束したことを守っていますか」に対する肯定的回答は81.3%で全国平均より10.2ポイント高い。今後もフィルタリングキャンペーンの啓発やデジタルシチズンシップに関する指導など、教職員間の連携だけでなく、家庭との連携を重視した教育活動を行うように努める。

○学習に関するものとして、「5年生までの学習の中でPC・タブレットなどのICT機器を活用することについて、次のことはあなたにどれくらい当てはまりますか。(5)自分の考えや意見を分かりやすく伝えることができる。」に対する肯定的回答は91.7%で12.5ポイント高い。また、「先生は、授業やテストで間違えたところや、理解していないところについて、分かるまで教えてくれていると思いますか。」に対する肯定的回答は100%で12.1ポイント高い。課題に合ったICT機器などの教材・教具を活用し、個に応じた指導をしてきた結果と考えられる。引き続き児童の学習状況の理解に努め、指導をしていく。

●「算数の勉強は大切だと思いますか」「算数の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか」に対する肯定的回答は100%である一方、「算数の勉強は好きですか」に対する肯定的回答は37.5%で全国平均より23.5ポイント低い。その他の算数に関する質問も全国平均を下回っているものが多い。AIDリルやパワーアップシート等を活用して基礎基本の定着を図りつつ、体験学習を取り入れながら算数の面白さに気付けるような授業の展開に努める。

宇都宮市立岡本小学校（第6学年） 学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

| 重点的な取組 | 取組の具体的な内容 | 取組に関わる調査結果 |
|--------------------|---|--|
| 児童が言葉の力を伸ばす工夫 | 授業で各教科における重要語句を繰り返し意識させ、自分の考えを言語化する場の設定をする。 また、話し合いの話し型・書き方の型を提示し、それをもとに友達と論理的に話し合いを進め、課題解決に見通しをもって取り組めるようにする。 | 「5年生までに受けた授業では、各教科などで学んだことを生かしながら、自分の考えをまとめる活動を行いましたか」との質問に対する肯定的回答の割合は75.0%で、全国平均より、4.6ポイント低い。 「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考えに気付いたりすることができていますか」との質問に対する肯定的回答の割合は89.6%で、全国平均より、3.3ポイント高い。また、「授業や学校生活では、友達や周りの人の考えを大切に、お互いに協力しながら課題の解決に取り組んでいますか」との質問の肯定的回答の割合は95.5%で、全国平均より4.3ポイント高い。 個人として自分の考えを言語化するすることに不安がある児童も、話し型・書き方の型の活用や友達との対話を通じた協働的な学びを通して、主体的に課題の解決に取り組んでいることが伺える。 |
| 児童が自信をもって伝え合うための工夫 | 各教科で宇都宮モデルである「はっきり」「じっくり」「すっきり」を意識した授業展開を行い、課題は何か、何をどのように学んだのかを気付けるようにする。また、本時の授業におけるまとめや振り返りをしっかりと行い、定着を図る。 自分の考えを適切に言語化できるよう、学習形態を工夫したり、ICT機器を効果的に活用したりし、学習に取り組むことができるようにする。 | 5年生までの学習の中でPC・タブレットをすることについて（分からないことがあった時に調べる、画像や動画、音声等での活用することで学習内容がよく分かる、友達と考えを共有したり比べたりしやすくする）の質問項目においての肯定的回答の割合が95%を超え、全国平均も大幅に上回っていた。 「国語の授業で、目的に応じて、話すために集めた材料を、いくつかのまとまりに分けて結び付けたりしながら、伝える内容を考えていますか」との質問に対する肯定的回答の割合は87.5%で、全国平均より7.5ポイント高い。また、目的に応じて「自分の考えが伝わるように工夫して文章を書いていますか」との質問に対する肯定的回答の割合が89.6%で、全国平均より6.4ポイント高い。 ICT機器を効果的に活用したり、担任や教科担任が適切に支援を行ったりした結果、自分の考えを言語化することに抵抗がなくなり挑戦しようとする姿が見えた。 |

★学校全体で、今後新たに重点を置いて取り組むこと

| 調査結果等に見られた課題 | 重点的な取組 | 取組の具体的な内容 |
|--|--|---|
| 教科に関する調査から、「目的や意図に応じて、事実と感想、意見とを区別して書くなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫すること」「計算の仕方を考察したり基にする数を判断したりし、求め方や理由を言葉や式、数を用いて記述すること」「複数の手段のデータの分布状況の傾向を比較して捉え、判断の理由を数学的な表現を用いて説明すること」等の正答率が全国平均より低い傾向にある。各教科において、題意を適切に捉え、必要な情報を用い、具体例などを挙げて説明することが課題である。 | 各学年、各教科で教科の重要語句を理解させ、既習の語句や内容を繰り返し取り上げ、自分で考えを書いたり説明したりする言語活動を、教科横断的に取り入れる。 教師が児童の発言をコーディネートし話し合い活動を充実させる。 | どの教科においても、言葉を意識したやり取りを積極的に取り入れ語彙を増やすとともに、複数の資料から必要な情報を比較したり、検討したり、関連付けて考えたりする活動の充実を図ることで、読解力の伸長を図る。また、教師がモデルとなる文章を提示するなど、型を示し、それを参考に、自分の考えや学習で分かったことを論理的に書く活動の充実を図ることで、表現力の伸長を図る。また、教科横断的な学習として、記録、要約、説明、論述、話し合い等の言語活動を設定していく。 授業内容に関連する「復習教材」や「過去問題」等を適宜取り入れ、既習事項を活用して様々な問題に取り組む機会を意識して設ける。 |